

反グローバリズム再考
—国際経済秩序を揺るがす危機要因の研究—

グローバルリスク研究

令和2年3月



公益財団法人日本国際問題研究所
The Japan Institute of International Affairs

はしがき

本報告書は、当研究所の令和元年度外務省外交・安全保障調査研究事業（総合事業）「反グローバリズム再考——国際経済秩序を揺るがす危機要因の研究」プロジェクトにおいて実施した「グローバルリスク」研究会の研究の最終成果をまとめたものです。

近年、英国のEU離脱や米国の自国第一主義政策に象徴されるように、先進国において反グローバリズムの動きが強まり、既存の政治・経済秩序を否定するポピュリズムや排外主義が台頭し、国内そして国際秩序を動揺させています。その要因としては、経済の低成長、格差の広がりなどの経済的な諸問題や先進国への大量の移民や難民の流入があげられます。移民・難民問題は、シリア内戦や中東域内大国の覇権争い、アメリカのプレゼンスの低下による中東の不安定化が大きく影響しています。

本プロジェクトにおいては、「反グローバリズム」の根底にある世界経済の構造変化を把握すると同時に、表層に現れた政治現象の連関を経済学、地政学、政治学、社会学、地域研究から分野横断的に探求し、より複雑化するグローバルなリスクに迅速に対応乃至は未然に回避するためにリスクを分析し、戦略的な対応策を検討して参りました。本プロジェクトは、主に経済問題を扱う「世界経済研究会」（主査：稲葉延雄・リコー経済社会研究所常任参与）と、地政学的問題を扱う「グローバルリスク研究会」（主査：立山良司・防衛大学校名誉教授）で構成され、共同ワークショップやシンポジウム等を通して有機的に各研究会の研究成果を共有、連携して参りました。

「グローバルリスク」研究会では、地域の不安定化がグローバルなリスクを拡大し、国際社会への脅威となる事例として、プロジェクトの最終年度である本年度は、米国・イラン対立の激化や制裁の影響などイランをめぐる諸問題、いつまでも終わりが見通せないシリア内戦と周辺国の対応、近年多くの注目を集めている「アフリカの角」をめぐる情勢、行き詰っている中東和平プロセスの現状および地中海海域を中心とする移民・難民問題の拡大、という5つのテーマを主に分析してきました。そして、それを踏まえて、本プロジェクトの政策提言を作成しました。

本報告書に表明されている見解は全て各執筆者のものであり、当研究所の意見を代表するものではありませんが、本書が「国際経済秩序」、「中東情勢」、「人口移動問題」を様々な観点から検討していく上での意義ある一助となれば幸いです。最後に、本研究に終始積極的に取り組まれ、本報告書の作成にご尽力をいただいた執筆者各位、その過程でご協力いただいた関係各位に対し、改めて深甚なる謝意を表します。

令和2年3月

公益財団法人 日本国際問題研究所
理事長 佐々江 賢一郎

研究体制

主 査： 立山 良司 防衛大学校名誉教授

<中東情勢・エネルギー研究部会>

委 員： 池田 明史 東洋英和女学院大学学長
今井 宏平 日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター
研究員
小野沢 透 京都大学大学院文学研究科教授
近藤 重人 日本エネルギー経済研究所中東研究センター主任研究員
吉岡 明子 日本エネルギー経済研究所中東研究センター研究主幹

<ポピュリズム・人口移動問題部会>

委 員： 小林 周 日本エネルギー経済研究所中東センター研究員
保坂 修司 日本エネルギー経済研究所中東研究センター研究理事
(敬称略、五十音順)

委員兼幹事： 中山 泰則 日本国際問題研究所所長代行
中野 大輔 日本国際問題研究所研究調整部長
貫井 万里 日本国際問題研究所研究員
赤川 尚平 日本国際問題研究所研究員
担当助手： 石塚 陽子 日本国際問題研究所研究助手
編集担当： 杉山 隆一 東京大学東洋文化研究所特任研究員
新井 春美 ガバナンスアーキテクト機構上席研究員
高橋 雅英 中東調査会協力研究員

尚、本研究会に講師として以下の方々にもご参加頂き、執筆もお願い致しました。
ここに改めて感謝申し上げます。

遠藤 貢	東京大学教授
秋元 一峰	秋元海洋戦略研究所代表
佐藤 寛	日本貿易振興機構アジア経済研究所上席主任研究員
寺中 純子	海外投融資情報財団調査部上席主任研究員
三井 祐子	国際協力機構調査部次長
Yezid Sayigh	Senior Fellow, Carnegie Middle East Center in Beirut
池内 恵	東京大学先端科学技術センター教授
墓田 桂	成蹊大学教授
浪岡新太郎	明治学院大学教授

目 次

令和元年度「グローバルリスク研究会」報告書要旨	1
政策提言——緊張の高まる中東・アフリカ地域における日本外交のあり方	13
序 章 複合的な中東危機	立山 良司 29
 第1章 制裁下のイラン——その国際関係と国内情勢	
第1節 まえがき	小野沢 透 33
第2節 米制裁復活後のイラン経済と EU の対応	寺中 純子 43
第3節 「軍事化」するアメリカの「最大限の圧力」政策に対するイランの対応 ——イラン・イスラーム体制の「軍事化」の兆し	貫井 万里 51
第4節 アメリカとイラン——第一期トランプ政権とその後	小野沢 透 63
第5節 サウジアラビアの対イラン姿勢 ——米国の「最大限の圧力」政策の中で	近藤 重人 81
第6節 イラクにおけるイラン・米国関係悪化の影響	吉岡 明子 87
 第2章 シリア内戦と域内大国の動向	
第1節 まえがき	今井 宏平 93
第2節 Syria in the Next Decade: Fragility, Complexity, and Unpredictability	Yezid Sayigh 97
第3節 内戦後のイラン・シリア関係 ——イランの野望とその限界	貫井 万里 107

第4節	シリアにおけるイランの動向とイスラエルの対応	池田 明史・・・・117
第5節	サウジアラビアの対シリア政策 ——「アラブの春」以降の政策の変遷	近藤 重人・・・・123
第6節	北シリアに対するトルコの対応	今井 宏平・・・・129
 第3章 パレスチナ問題——二国家解決案の終焉と今後の展望		
第1節	まえがき	池田 明史・・・・135
第2節	崩壊したオスロ和平プロセスと国際社会	立山 良司・・・・139
第3節	イスラエル総選挙の含意と展望	池田 明史・・・・145
第4節	サウジアラビアの対イスラエル・パレスチナ姿勢	近藤 重人・・・・151
第5節	パレスチナに対する日本の取り組み	三井 祐子・・・・155
第6節	二国家解決案の終焉 ——トランプ和平案が生み出す現実	立山 良司・・・・169
 第4章 「アフリカの角」——新しい地域安全保障複合体		
第1節	まえがき	遠藤 貢・・・・175
第2節	「アフリカの角」と紅海の安全保障 ——アフリカ側の視座から	遠藤 貢・・・・179
第3節	イエメン内戦と「アフリカの角」	佐藤 寛・・・・187
第4節	サウジアラビア、UAE、エジプトの紅海への関与	小林 周・・・・197
第5節	トルコ外交におけるスーダンとソマリア	今井 宏平・・・・203

第6節	「アフリカの角」の地政学的重要性 ——海洋安全保障の視点から	秋元 一峰・・・ 209
第5章	拡大する移民・難民問題と中東	
第1節	まえがき	立山 良司・・・ 215
第2節	EUにおける移民・難民問題 ——欧州のアイデンティティをめぐる葛藤	墓田 桂・・・ 221
第3節	北アフリカにおける「人の移動」をめぐる複合的問題	小林 周・・・ 229
第4節	世界的なイスラーム過激派の動向と移民・難民問題 ——バグダーディー後のジハード主義	保坂 修司・・・ 235
第5節	誰のことかわからないままに、ムスリムについて 語ることの問題	浪岡新太郎・・・ 243
第6節	ポストISのイラクにおける国内避難民問題	吉岡 明子・・・ 251

